

らぼーる図書室だより

★おすすめの本(7月1日現在)

刊年	内容	タイトル・著者名	出版社	分類
2013	★	夢幻花／東野 圭吾	PHP研究所	913
2013	★	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年／村上 春樹	文芸春秋	913
2013	★	つくもがみ、遊ぼうよ／畠中 恵	角川書店	913
2013		かんかん橋を渡ったら／あさの あつこ	角川書店	913
2013	★	閃光スクランブル／加藤 シゲアキ	角川書店	913
2013	★	わりなき恋／岸 恵子	幻冬舎	913
2013		陽炎の門／葉室 麟	講談社	913
2013		幸村去影／津本 陽	徳間書店	913
2013		五二屋傳蔵(ぐにやでんぞう)	朝日新聞出版	913
2013		また次の春へ／重松 清	扶桑社	913
2013		猫弁と指輪物語／大山 淳子	講談社	913
2013		信長の二十四時間／富樫 倫太郎	NHK出版	913
2013	★	余命3カ月の嘘／近藤 誠	KKベストセラーズ	494
2013		医者に殺されない47の心得／近藤 誠	アスコム	490

★ が付いている話題の本の内容については、下記に記載しています。

913 夢幻花／東野 圭吾

アサガオに黄色い花はありません。しかし江戸時代には存在していたのです。ではなぜ今は存在しないのか。人工的に蘇らせることは不可能なのか。そのように考えていくと、徐々にミステリの香りが立ち上がってきました。著者自らが語る会心作！

913 色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年／村上 春樹

良いニュースと悪いニュースがある。多崎つくるとして駅をつくることは、心を世界につなぎとめておくための営みだった。あるポイントまでは……。

913 つくもがみ、遊ぼうよ／畠中 恵

深川の古道具屋「出雲屋」には、百年以上の時を経て妖となった付喪神たちがたくさん！清次とお紅の息子・十夜は、様々な怪事件に関わりつつも、幼なじみや付喪神に囲まれて、健やかに成長していく……。

913 閃光スクランブル／加藤 シゲアキ

夜7時、渋谷スクランブル交差点。女性アイドルとパパラッチー。心に傷を負った者同士が、本当の居場所を求め踏み出す一歩から始まる愛と再生の物語。

913 わりなき恋／岸 恵子

でも、でもね、逢えてよかった……。突然の、胸の高鳴り。年齢のくびきを越えて燃え上が鮮烈な愛と性。愛憎、献身、束縛、執念、嫉妬、エゴ……男女間のあらゆる感情を呑み込みながら、容赦なく過ぎていく時間に抗う最後の恋は、どこへ行きつくのか？

494 「余命3カ月」のウソ／近藤 誠

がんが恐ろしいのではない。「がんの治療」が恐ろしいのです。歩いて病院に行ける人間が「余命3カ月」なんてありえません。余命宣告の多くは、患者を治療に追い込むための”脅し”だった！